

みよしうかいでんとうぶんかしんこうかい
三次鶺鴒伝統文化振興会 (鶺鴒保存伝承/広島県三次市)



会長の
村竹 昇さん

【経歴】(2022年4月現在)

- 1959年 三次市無形文化財「鶺鴒」指定
- 2008年 三次鶺鴒伝統文化振興会設立
- 2015年 広島県無形民俗文化財「三次鶺鴒の民俗技術」指定
- 2018年 広島県教育奨励賞

【由来】

三次の鶺鴒漁は中世に発生したといわれ、三次藩初代藩主浅野長治(1614~1675)のときに確立したと考えられている。

江戸期を通してその技術を確立させ、高い漁獲量を得る漁業の性格を強めていった。

明治期には鶺鴒漁の自立が求められ、技術改良が一層進み、鶺鴒の風情を楽しむ観光鶺鴒も最盛期を迎えた。

1951年(昭和26年)に鶺鴒漁法が水産資源保護法により全面禁止になった後も、観光事業としての存続が許可され、現在も観光鶺鴒として伝統の技術を披露している。

受賞の言葉 (村竹 昇会長)

この度は、エネルギー伝統文化賞という大変栄誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。

私ども「三次鶺鴒伝統文化振興会」は、およそ450年の歴史をもつ伝統文化である「三次鶺鴒」の維持発展のため、鶺鴒制度の保存・継承を図るとともに、郷土文化の向上・発展に寄与することを目的に、2008年(平成20年)に発足しました。主に、鶺鴒の技術の向上、鶺鴒の飼育・調教、鶺鴒に用いられる川漁具の保存・継承、後継者の育成といった事業を行っています。

現在、鶺鴒匠は3名在籍していますが、6月1日から9月10日の観光鶺鴒シーズンでの技術の披露だけでなく、鶺鴒の飼育管理等で365日休むことなく、当会の事業に奔走しています。

近年は、三次市内の教育機関(主に小・中学校)への鶺鴒匠の出張授業を行い、未来を担う子どもたちの郷土愛を育み、鶺鴒匠の後継者育成に繋がるよう、力を入れています。

ここ数年の豪雨災害による河川環境の悪化や、新型コロナウイルスの出現という新たな課題も立ちまはかっていますが、長い歴史の中で受け継がれ、先代の知恵が詰め込まれた伝統文化「三次鶺鴒」が、これからも市民の誇りであり続けるよう、地域社会へ貢献してまいります。

三次鶺鴒は、「鶺鴒匠・舵子・鶺鴒」の三位一体で漁業として確立したもので、伝統的な技術を四百数十年にわたり伝えてきた。一方で、鶺鴒匠制度で保護されてきた長良川鶺鴒などと異なり、日本一長いとされる手縄で6~7羽の鶺鴒を操る技術や複数の操船法の開発など、多くの漁獲を得るため編み出された鶺鴒技術の変遷過程も認められる。

三次鶺鴒は、漁業を基盤に据え継承・発展した民俗技術の典型であり、地域的特色も顕著であることから、2015年に広島県無形民俗文化財に指定されている。

三次鶺鴒伝統文化振興会は、民俗技術としての三次鶺鴒の保存伝承を積極的に行うことを目的に2008年に結成された。

事業主体の組織化によって、若手の鶺鴒匠の育成や、鶺鴒の飼育・訓練する技術の継承が体系的に行われるなど、将来にわたって三次鶺鴒を伝承していく体制が整備された。

三次市の夏の風物詩となっている観光鶺鴒は、こうした振興会の活動に支えられ、多くの観光客が鶺鴒技術の妙技を味わえる文化財の公開活用場となっている。他にも振興会は、出張講座やシンポジウム等での講演なども精力的に行っている。

以上のように、三次鶺鴒伝統文化振興会は、伝統技術の安定的な伝承への取組を評価することができ、地域振興への貢献が顕著であり、今後も広島県の文化の普及に大きく貢献していくことが期待される。



2020年(令和2年)9月
 鶺鴒共同飼育場にて
 和田小学校の児童の皆さんが鶺鴒共同飼育場を訪れ、鶺鴒の飼育状況や鶺鴒についての講話、鶺鴒実演を行いました



2021年(令和3年)7月
 鶺鴒乗船場にて
 舟で川へ出て実際に鶺鴒を操る「鶺鴒体験」を行いました



2021年(令和3年)7月
 市内保育園にて
 鶺鴒実演の様子